

今、大切なこと・・・

安永三郎

今の世の中、少年犯罪ほど目に付くものはない。親がわが子を手に掛ける。逆にわが子に殺される親も少なくない。一体何が原因でこのようなことになるのだろうか。

今、二極化が進んでいるという。そういう極端な意思、考え、思考、言動によって生きているのが今の子どもたちではないだろうか。またそういう考えしかできない子どもたちである。子どもは乳児期から思春期にかけてだんだん大人に近づいていく。親はその時期、時期でかける言葉の必要性、重要性を考えなければならない。つまりは親も言葉も成長して使われる。子どもを成人させている親ほどそこら辺のこつを弁えていると思うのである。親は乳児期・幼児期の言葉から脱していないので、思春期になっても幼児期の言葉で語ろうとするから子どもも成長しない。要するに親離れ、子離れができないということが問題なのである。

ある授業で取り組んでいる、コミュニケーション。「していいこと」「してはいけないこと」などの規範意識も、「やるべきだ」「やめるべきだ」などの規範意識もこのコミュニケーションから学んでほしい。誰とするのではなく人間最初にとるのはやはり親である。親と子どものコミュニケーションをどんどん成長させて充実して行ってほしい。それがしつけであり、子どもに考えさせるということにつながっていくと思う。そして、子ども自身いつまでも「受身」で生きているのではなく、自分で社会のルール・マナーなどを考えなくてはならない。つまり自分で考えるということである。

休み中、普段の学校生活から離れて個々の考え方、行動の仕方によってはよくも悪くもなります。「何もしないでいたら過ごす生徒に自己実現はない」のです。いろいろな犯罪に巻き込まれないように自分自身の生活行動をコントロールして有意義な夏休みを送ることを期待しています。(2005, 7月)